

# 大型連休前、コロナ対策を市議団と市委員会が申し入れ

4月25日(月)、日本共産党松江市委員会と市議団は、3月1日につづきコロナ感染症対策に関する要望を松江市長と教育長に対し申し入れました。

2月20日にまん延防止等重点措置が終了してから松江市の感染確認数は、収束に向かうどころか、3月は過去最大の確認数となり、4月になってからも連日1000人を超える日があるなど深刻であり、市民の不安がますます増えています。学校や保育園、同じ施設での繰り返しの感染の有

無、学校の部活動の対策、大型連休も前に、学校や保育園等での感染防止、保護者支援として▽市内の感染状況に関わる市民への情報提供▽小児



小村総務部長に要望書を渡す  
共産党市議団

科医など専門家の科学的知見を取り入れ助言を行うこと▽定期的な検査等の充実▽教職員希望者へのワクチン優先接種▽少人数学級の前倒しを国や県に求めること。▽給食費の無償化や保護者負担の軽減を図ることなどを要望しました。

またウクライナ情勢等も加わり原油価格の世界的高騰などが農漁業や営業に与える影響が大変であるとし、生活と営業を支える十分な補償、感染の急拡大に対応した医療や保健所の体制強化、また、ワ

クチン接種の前倒しやPCR検査の強化を22項目にわたって要望しました。

小村総務部長が応対し、外部委託も含めた保健所体制の強化やワクチン接種の強化などについて懇談し「必要な部に連絡する」と応じました。27日には藤原教育長と懇談。要望項目に加えて、前週に市が発表したこれまでの学園毎



藤原教育長に要望書を渡す  
共産党市議団

の感染状況の公表について評価するが「一歩踏み込んで」感染を繰り返す学園エリアでの定期的な検査等を、「保健所のひつ迫等により」「検査範囲の確定には事業所職員や教職員に負担が大きい」との現場の声を届けました。教育長は「学園エリア毎の休校措置が予防策である」「検査範囲の特定は現場の協力が不可欠」と回答しました。

## 科学的な根拠あるコロナ対策を

### 田中はじめ市議代表質問⑤

田中はじめ市議は2月市議会代表質問で新型コロナウイルス感染症対策について上定昭仁市長に質しました。

田中市議は、新型コロナウイルス感染症への政府対応の最大の問題点は科学的根拠のなさであると述べ、「新型コロナウイルス感染症の最大の

特徴は、症状が出る前に、すなわち感染者が自らの感染に無自覚な時期に周囲へ感染を広げる点にある。従って、感染拡大を抑えるためには大規模検査を行って、無症状感染者を一刻も早く発見し、周囲

ではないか」と指摘し、「これまでの政府のコロナ対応の最大の問題点は、科学的な根拠に欠ける対応にあるのではないか。市長はどのような見解か」と質しました。

「国においては、有識者会議等の助言を踏まえ、科学的な根拠や知見に基づき対応を定めていくと認識している。一方、新たな変異株による感染

拡大の不安がある。国においては迅速に対応いただきたい」と答えた。



はじめ市議  
田中市議

崩壊するという主張で大規模検査を否定してきた。その結果、大規模な感染拡大を防ぐことができず、医療崩壊が現実のものとなってしまったの

「国においては、有識者会議等の助言を踏まえ、科学的な根拠や知見に基づき対応を定めていくと認識している。一方、新たな変異株による感染



ふみ市議  
たちばな市議

たちはな市議は2月市議会代表質問で「コロナ禍の保育の確保について③子ども食堂④学校制服⑤中海問題の5つのテーマで質問しました。今回は⑤について報告します。たちはな市議は自身も中海の真ん中、八束町で暮らしていることに触れ、「中海周辺の住民の願いは、「泳げる中海」「豊かな中海」の復活だと主張。6月議会において市長が中海周辺の地域振興について「水質改善と水産振興の

中海会議での報告内容、②水質改善と水産振興について、水質は改善しているのに漁獲量は減っている現状から、国、県、市の分析や改善に向けての検討状況、③専門家などから「昔の反時計回りの流れを取り戻すこと」「酸素のいきわたらない湖底や米子湾の水質改善のため、森山堤防のより深く幅広い開削架橋と、大海崎堤防の開削が必要」と指摘がある。大海崎堤防かさ上げとあわせて、堤防中央部の100mを超える開削、架橋を行うことを県や国に要望すべきと質し「泳げる、豊かな中海になってこそ水辺を利用したまちづくり、地域の活性化、持続可能な松江が現実のものになる」と訴えました。上定昭仁市長は「水辺を生かしたまちづくりや活性化の実現に取り組むため、次年度

には中海振興計画を策定し、スポーツパークの活用、水面を活かした水上スポーツ振興、特産品振興、なかうみスカイポート活用の可能性を検討する」と答弁しました。松尾純一歴史まちづくり部長は「人にとつての水質改善が必ずしも魚にとつての生息環境の改善に結びつかない不明なところが多い」とし「今後、国、両県、沿岸市がもっているデータを中海会議で収集整理し中海利活用の一環として取り組む」と答弁しました。花形泰道環境保全部長は「平成21年の森山堤防開削の前後で水質に大きな変化がなく全体的に改善傾向」だとし「開削を県や国に求める考えはない」「県が鳥取県とともに水質モニタリング結果を引き続き注視する」と述べるとどまりました。

## 泳げる中海 豊かな中海 復活を

### たちはな市議一般質問⑤